

『人生の邂逅』 ～ 揺らぐことのない糧 ～

2025 年 3 月 13 日、筆者は恵泉女学園理事長として、多摩市にある恵泉女学園大学の 2024 年度『卒業式&学位授与式』に出席した。保護者の皆に、【どんな人でも直面する悩みや悲しみを癒し、苦難や逆境を乗り越え、“よき人生”を過ごす糧を与えてくれるものです。】と挨拶した。『卒業生の真摯な姿勢に心が慰められた卒業式』となった。

筆者は若き日に【『夕闇に飛び立つミネルバの梟』(ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル Georg Wilhelm Friedrich Hegel:1770-1831) VS『朝方に舞い上がるミネルバの梟』の違い】を学んだのが鮮明に思い出された。『夕闇に飛び立つ』とは、物事が解決してから偉そうな口をたたく人『後追い』である。『朝方に舞い上がるミネルバの梟』で傍観者にならない姿勢が大切となろう。

筆者の着席の姿勢は、何時も斜めに傾いており(画像)、『背筋を伸ばして、真っ直ぐに座るように』と wife から注意される。斜めの姿勢は、105 歳でご逝去された聖路加国際病院名誉院長 日野原重明先生(1911-2017)と 20～30 年前に講演した時に学んだものである(画像)。まさに『人生の邂逅』である。

その後、順天堂大学から【新渡戸稲造記念センター in 『新渡戸記念中野総合病院』、そして新渡戸稲造(1862～1933)が、初代学長を務めた『東京女子大学』東京都杉並区の東京女子大学の評議員会・理事会に向かった。校門の広告看板『正確がない時代に、問い続ける力を』(画像)の【揺らぐことのない芯を持ち、進みたい道を自ら決められる人。】の言葉には感銘した。今は亡き原田明夫(1939-2017: 元検事総長・東京女子大学前理事長)と毎年シンポジウムを一緒に開催して頂いたことが 走馬灯のように駆け巡ってくる。

2000 年『新渡戸稲造 武士道 100 周年記念シンポジウム』(国連大学)

2002 年『新渡戸稲造生誕 140 年』(伊香保温泉)

2003 年『新渡戸稲造没後 70 年』(札幌)

2004 年『新渡戸稲造 5000 円札さようならシンポジウム』(国連大学)

